

令和3年産 果樹情報（第2号）

令和3年5月17日
宮城県大河原農業改良普及センター

4月の低温による凍霜害が各樹種で発生しています。
園地ごとに結実状況を確認し、適切な管理を行いましょう。

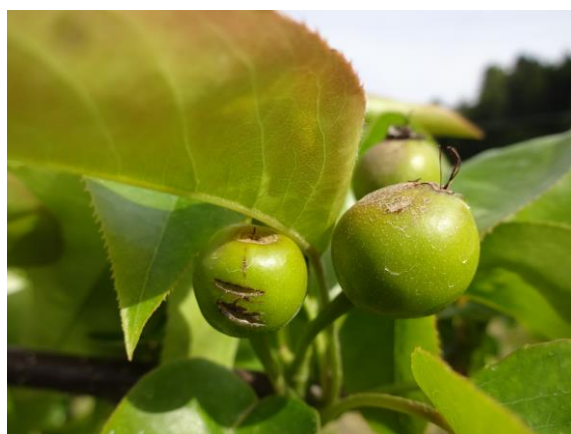
1 気象経過

アメダス白石地点の月平均気温は、3月が7.5℃で平年より3.2℃高く、4月が10.2℃で平年より0.7℃高く経過しました。4月の降水量は72.5mmで平年の75%でした。

4月は、管内の各アメダス地点で最低気温が表1のとおり0℃を下回る日があり、各樹種で凍霜害が発生しています。

表1 令和3年の各アメダス地点の日最低気温（℃）

月日	白石	蔵王	丸森
4月2日	1.6	-0.1	-0.1
4月8日	2.0	0.0	3.6
4月9日	-0.4	-1.7	0.7
4月10日	-1.9	-2.4	1.7
4月11日	-1.3	-3.4	-3.1
4月12日	0.9	-0.6	-0.8
4月15日	-2.2	-2.6	-1.8
4月16日	1.1	0.0	-0.6
4月24日	1.2	0.0	-0.6
4月26日	0.0	0.4	0.2
4月27日	-1.2	-1.8	-3.4



角田市 豊水 凍霜害による果面障害

2 果樹作況調査ほの発芽・開花状況

大河原管内の果樹作況調査ほの発芽・開花状況は、表2のとおりです。

満開期は、平年に比べ、りんご「ふじ」が4月22日白石で8日早い、なし「幸水」が4月16日角田で9日早い、4月18日蔵王で10日早い、「豊水」が4月13日角田で10日早い、4月15日蔵王で12日早い、もも「あかつき」が4月5日丸森で12日早い状況です。

表2 発芽～開花状況

樹種	地点	品種	発芽期		展葉期		開花始		満開期		落花期	
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
りんご	白石・郡山	ふじ	3/22	3/31	3/31	4/10	4/16	4/26	4/22	4/30	4/28	5/6
		幸水	3/22	4/3	4/7	4/18	4/13	4/22	4/16	4/25	4/26	5/4
なし	角田・豊室	豊水	3/20	3/31	4/3	4/15	4/10	4/19	4/13	4/23	4/23	5/1
		幸水	3/25	4/5	4/12	4/21	4/15	4/26	4/18	4/28	4/28	5/6
	蔵王・高木	豊水	3/23	4/3	4/9	4/17	4/12	4/24	4/15	4/27	4/25	5/5
もも	丸森・館矢間	あかつき	3/18	3/26	4/5	4/17	3/31	4/12	4/5	4/17	4/12	4/25

3 凍霜害を受けた場合の対策

品種、斜面の上下など地形の違いによる被害程度の差が大きいため、場所や樹ごとに管理の仕方を変えます。

(1) 摘果

- ・ 予備摘果は、結実を確認してから行いましょう。また、残った果実もさび果、奇形果になりやすいので、仕上げ摘果は被害がはっきりしてから行いましょう。

(2) 新梢管理

- ・ 着果量が少なくなると樹勢が強くなるので、翌年の結果枝の花芽形成を確実にするため、芽かきや徒長枝のせん除など新梢管理を徹底し、暗い日陰を作らないようにしましょう。

(3) 追肥

- ・ 被害が甚大な園では果実肥大促進を目的にした追肥は必要ありません。

(4) 病害虫防除

- ・ 被害が甚大な園でも、翌年の収穫に向けて必要な病害虫防除は確実に行いましょう。

4 樹種ごとの管理

(1) りんご

イ 仕上げ摘果

- ・ 凍霜害を受けた果実は、さび果、奇形果になりやすいので、被害程度を確認し、果形の良い果実を残しましょう。
- ・ 満開60日後まで（白石・郡山「ふじ」は6月21日頃）を目安に終了すると果実品質が高まります。
- ・ 標準的な適正着果量は表3のとおりです。樹勢が強い場合はやや多めに、弱い場合には少なめに摘果を行い、結実の少ない園地では着果数の確保を優先します。

表3 品種別の適正着果基準

品 種	着果量の目安	1果当たりの必要葉数
つがる, ジョナゴールド, 紅玉	3~4頂芽に1果	45枚~60枚
ふじ, 王林, 陽光, さんさ, 秋映	4~5頂芽に1果	60枚~75枚

- ・ 残すべき果実は中短果枝（20cm以内、特に果台枝）や頂芽の果実です。果台枝は摘果時に伸長が止まっており、長さが15cm以下のものとしますが、果台枝が2本発生しているものは良くありません。また、果そう葉が多くあり、果柄が長くて太く、果実は縦長で肩が張っている果実（ふじ）で、果実の着果している果台部分から新梢が発生していることが理想です。
- ・ 摘果する果実は小玉果、変形果、障害果（さび、傷、病害虫等）、逆さ実、長果枝（概ね30cm以上）先端の果実、果台部分の長さが極端に長い（2cm以上）か短い（1cm以下）ものです。ふじ等で着果量が少ない場合は、樹勢調節のために果台が2cm以上の果実も着果させます。

ロ 新梢管理

- ・ 樹冠内部への日照を妨げている場合や、防除薬剤の到達を妨げている場合など、必要に応じて徒長枝を切除します。
- ・ 太枝の切り口付近や背面、わい化樹の側枝基部などから強い芽が発生してくるので、長大化する前に芽かきを行いましょう。

ハ カルシウム剤の果面散布

- ・ 果実にビターピットやコルクスポットの発生しやすい園地では、幼果期以降にカルシウム剤を複数回果面散布すると防止効果があります。

二 病虫害防除

■斑点落葉病, 炭そ病, 褐斑病, アブラムシ類, ハマキムシ類

これらの病虫害に対する主要防除時期を迎えるので, 十分な散布量を確保して散布ムラのないよう薬剤散布を行いましょ。う。

■黒星病

青森県, 長野県ではDMI剤 (FRAC : 3) への耐性菌が発生しています。これらの地域から苗木を導入したときには病斑の有無に注意するとともに, 苗木にもしっかりと防除を行いましょ。う。

(2) 日本なし

イ 仕上げ摘果

- ・ 4月の低温に伴う凍霜害により結実不良の園地が多く, 残った果実も多くが障害を受けています。
- ・ 凍霜害を受けた園地では果実がさび果, 奇形果になりやすいので, 仕上げ摘果は障害の程度が明らかになった後に行います。それ以外の園地では満開後50日頃までに, 果そう葉が多く, 果形の良い大きな果実を残します。
- ・ 小玉果が目立つとき, 新梢の生育が悪いときには着果量を調整しますが, 単位面積当たりの着果量に留意しながら作業を行います。

なお, 裂果が観察される時期には他の果実裂果を助長する恐れがあるので, 摘果を控えます。

ロ 新梢管理

■新梢のせん除

側枝基部に発生した強い新梢や主枝・亜主枝の背面から発生した新梢のせん除を行います。時期は満開後45日~60日 (角田5月31日~6月15日頃, 蔵王6月2日~6月17日頃) を目安に実施します。この時期以降では樹勢低下や果実糖度の低下を招くので注意しましょ。う。

■予備枝の管理

幸水の予備枝誘引適期は, 新梢停止期の約10日前の満開後65日頃 (角田6月20日頃, 蔵王6月22日頃) になります (新梢長90~100cm, 展葉節数が18~20節程度)。

長果枝せん定で予備枝を取らず, 潜芽から出た新梢を利用した場合には, 翌年の結実が不良になりやすいので要注意です。

ハ 病虫害防除

凍霜害を受け着果量の少ない園地でも病虫害防除は確実に行いましょ。う。

■黒星病

果そう基部の病斑, り病葉及びり病果は二次伝染源となるので見つけしだい取り除き, ほ場に放置せず地中に埋めるなど適切に処分するとともに, 降雨があるときは薬剤防除間隔を10日以上空けないようにします。

■シンクイムシ類, ハダニ類

ほ場内の観察や発生予察情報を参考に, 発生初期の防除に努めます。

(3) もも

イ 摘果

- ・ 凍霜害を受けた園地では、結実や生理落果の状況及び果実の障害を確認してから行いましょう。
- ・ 仕上げ摘果は、満開後 40 日頃から硬核期開始の満開後 50 日頃（丸森 5 月 25 日頃）までに実施し、硬核期終了後に修正摘果で適正着果量とします。

着果量の目安：長果枝は 1～2 個，中果枝は 0～1 個，短果枝は 0～1 個

ロ 新梢管理

- ・ 5 月下旬～6 月中旬頃は新梢の生育が最も盛んな時期なので、樹勢の強い樹や若木等では樹冠内が混雑しやすくなります。樹冠内部、主枝・亜主枝・側枝の基部など徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し、全体に光が当たり、風通しが良くなるように心がけます。
なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定を行わないか、最小限とします。
- ・ 硬核期間中の過度な夏季せん定は、核割れや生理落果を助長するおそれがあるので最小限とし硬核期終了後に実施します。

ハ 病害虫防除

■せん孔細菌病

今後の風雨によって発生が急激に増加するおそれがあるため、春型枝病斑のせん除と気象に応じた適期薬剤防除を徹底します。春型枝病斑は、新梢及び新梢葉の生育不良や病葉の発生位置が発見のポイントです。

■ホモプシス腐敗病、灰星病

芽枯れや枝枯れが見られる場合には、見つけ次第せん除します。

重要防除時期なので、薬剤防除を徹底します。

※ 薬剤散布に当たっては早生種の収穫時期に十分注意し、使用時期（収穫前日数）を遵守します。